2025_0513「本庄早稲田の礫岩（写真）」日々の理科 3932 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

上越新幹線に「本庄早稲田（ほんじょうわせだ）」という駅があります。東京～高崎の新幹線の駅では唯一「新幹線専用の駅」です。高崎線の本庄駅とも本庄市街地とも離れていて、駅周辺は田園地帯になっています。この駅の皆に側には小高い丘があり、その丘全体が早稲田大学のキャンパスになっています。

本庄早稲田駅はほとんどの新幹線電車は通過だし、早稲田大学に出張という用もなかったので、私はこの駅で降りたことは一度もありませんでした。しかし、新幹線の車窓から眺めていて、関東平野の真ん中にどうしてこんな丘があすのだろう？地質的にはそんなものなのだろうと、ずっと気になっていました。

地質的には本庄早稲田駅の執念は、新生代第四紀更新世の「段丘堆積岩」または、第四期完新世の「自然堤防堆積物」という、実に単調な魅力に欠ける地域です。行って調べてみたいとはあまり思いません。しかし、早稲田大学のある丘（大久保山）だけは、周囲よりも古い新第三期中新世の「非海成層礫岩」で構成されています。これは実際にその礫岩を見に行きたいと思い、本庄まで行ってきました。

地質図で「〇〇岩」とか「〇〇層」と書かれていても、土地のほとんどは表土（土壌）や人工物（造成や建物）に覆われ、岩石の露頭を探すのは容易ではありません。しかし、工事で法面を作った切通しや、土地のカサを下げたような場所では、露頭が見られる可能性が高くなります。

この日もキャンパス内をうろうろして、駐車場の造成地で礫岩を見つけました。この「非海成層礫岩」というのが、湖底なのか河原なのかはわかりませんが、こんな関東平野の真ん中に礫岩の丘があるというのは、誠に不思議なことです。

（2025 年 5 月上旬／埼玉県本庄市西富田）